

畜産みやぎ

題字 宮城県知事 本間俊太郎

発行所

仙台市青葉区上杉一丁目2番16号

法人 宮城県畜産会

電話 (262-9180)

編集発行人 百井英一

定価 1部62円

印刷所 KK東北プリント



(社) 日本種豚登録協会宮城県支部
40周年記念式典

もくじ

- 平成2年度畜産振興施策の概要…… 2
- 家畜共済事業の概要について…… 4
- 平成2年度畜産物価額安定制度について…… 6
- 平成元年度生乳計画生産について…… 7
- 創立40周年を祝う…… 8
- 畜産試験場における試験研究の現状と
平成2年度計画…… 9
- 豚の細菌性下痢症…… 10
- 畜産ビデオ貸出しのご案内…… 10

平成2年度 畜産振興施策の概要

宮城県畜産課

本県の畜産は、農業経営の複合部門の柱として位置づけられ、農業粗生産額の3割を超えるまでに発展しております。しかしながら、畜産を取りまく情勢は一年後に迫った牛肉の輸入自由化、内外畜産物価格差の拡大、産地間競争の激化、担い手の高齢化などの問題があり厳しい局面を迎えています。

このため平成2年度は、21世紀を展望しつつ「国際化に向けた活力ある畜産の振興」をスローガンに、次の事項を重点方針として畜産振興施策の推進を図ることとしております。

1. 地域ぐるみ、高生産、低コスト畜産の推進

(1) 地域畜産活性化対策の推進

自給飼料増産、肉用牛、豚の一貫経営及び乳肉複合経営の促進により地域畜産の普及定着を促進する。また担い手対策として就労条件の改善に向けた酪農ヘルパー制度の導入を図る。

(2) 飼料基盤の拡充と効率利用の促進

集落ぐるみで転作田等の有効利用や里山等未利用地の草地開発により飼料基盤の拡充を図る。また、農用地の集団化、高性能機械等の共同利用、粗飼料の効率利用により生産性の高い畜産を推進する。

(3) 家畜改良の推進

優良肉用種雄牛づくり及び乳用牛群の総合改良に取り組み資質、経済能力に優れた生産性の高い家畜づくりを推進する。また、平成元年度に完成した系統豚「ミヤギノ」の銘柄の普及に努め養豚農家への供給を効率的に進める体制を整備する。

(4) 畜産経営環境基盤の整備促進

農村の都市化、混住化の進展に伴い、畜産経営環境の整備、保全に対する要請は年々高まりを見せており公害のない健全な畜産経営の推進が強く求められている。このため、県営畜産経営環境整備事業等を活用

して、糞尿の農地還元を基本とした施設、基盤を推進する。

(5) 家畜保健衛生対策の推進

家畜疾病による経済的損失を最小限に防止し、健全な畜産経営の展開を図るため、家畜畜産物衛生思想の普及向上を図り、また、家畜衛生情報処理システムの充実により有事即応の防疫体制の確立を図る。

2. 地域の特性を活かした「みやぎ和牛の郷づくり」の推進

(1) 仙台牛産地化の推進

牛肉の輸入自由化に対処し、商品性の高い「仙台牛」の産地化を一層推進するため、肉質、増体能力に優れた種雄牛づくり及び和牛改良組合等を中心とした繁殖雌牛群の充実強化を図る。また、「仙台牛」銘柄の普及・定着を促進するため、仙台牛銘柄推進協議会の活動を援助し県内外における消費拡大を推進する。

(2) 低コスト肉用牛生産の推進

酪農及び肉用牛経営の安定と雌資源の有効活用を図る観点から、「あか牛」の生産振興や交雑種肉用牛の生産拡大並びに肉用牛一貫経営を促進しながらその定着化を図るとともに投資の軽減化に資するため、間伐材、電柱等を利用した低コストモデル牛舎の普及を進める。さらに転作田及び裏山・里山等の未利用地を含め、自給飼料の高位生産利用のための生産条件整備等も積極的に進め、粗飼料多給型の低コスト肉用牛生産を推進する。

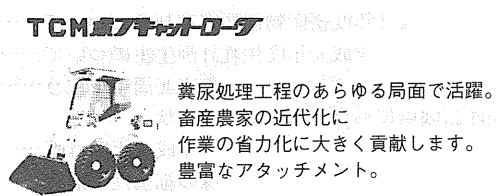
(3) ふるさと牛飼いの推進

肉用牛生産基盤拡充と肉用牛の飼育を通しての高齢者の生きがい対策、農村子弟の情操教育、土づくり等「ゆとりとうるおいのある地域づくり」に資するため、県市町村、農業団体、生産者等が一体となり全県的な「みやぎ和牛の郷づくり運動」を推進する。

また肉用牛の経営規模拡大、新規参入者の育成等に資するため計画的な家畜導入を推進する。

3. 商品性の高い畜産物の生産と流通対策の推進

(1) オリジナリティ畜産の展開

 <p>TCM東洋運搬機株式会社 東北ティールシーエム株式会社 983 仙台市宮城野区中野字葦畔135-1 電話 022-259-6351</p>	<p>畜産の健康と未来に貢献する 獣医用薬品・畜産用医薬品・ワクチン・器具機材</p> <p>小田島商事株式会社</p> <p>本社 岩手県花巻市卸町66番地 TEL 0198 264151(代)</p> <p>古川営業所 宮城県古川市稲葉字大江向179-1 TEL 0229238888(代)</p> <p>花巻営業所 水沢営業所 青森営業所 盛岡営業所 大館営業所 八戸営業所 大船渡営業所 横手営業所 山形営業所 酒田営業所 福島営業所</p>
---	--

畜産物に対する消費者ニーズの多様化、産地間競争の激化に対応し、本県の恵まれた条件を活かす新しい畜種の導入を推進する等、バラエティーに富んだ個性的な産地の形成を促進する。

(2) 酪農・養豚・養鶏の計画生産の推進

国内外の需給動向を踏まえ、生乳、豚肉、鶏肉の適正な価格形成の確保と将来にわたって健全な発展がなされるよう、生乳流通改善対策、肉畜鶏卵生産出荷調整会議等を通じて生産者及び生産者団体が自主的に行う計画生産の円滑な推進を図る。

(3) 畜産物消費拡大対策の推進

「消費あっての生産」の基本認識のもとに、全国に誇る「仙台牛」や牛乳、乳製品をはじめ、それぞれの畜産物について、生産者、生産者団体、関係業界が一体となって展開する消費宣伝キャンペーン、イベント、販路拡大活動等を積極的に支援するほか、学校給食用牛乳供給事業における土曜飲用の推進を図り消費の拡大に努める。

(4) 畜産物の流通改善の推進

消費者に対する畜産物の安定供給と流通コストの節減一合理化を目指し、指定生乳生産者団体を中心とした生乳の合理的な流通体制の整備及び食肉流通公社を始め、家畜市場を中心とした肉畜流通体制の一層の整備強化を推進する。

(5) 畜産物価格安定対策の推進

牛肉の輸入自由化対策として肉用子牛価格の低落に対する価格補てん機能を強化充実した新たな子牛の不足払い制度の普及に努め、さらに価格補てん準備積立金の増額を行うとともに、畜産物価格安定基金、配合飼料価格安定基金、卵価安定基金等への畜産農家の加入を促進する。

4. 高度な畜産技術の開発と情報システム化の推進

(1) 牛受精卵移植技術の開発・実用化の促進

21世紀を展望した本県畜産の飛躍的な発展と多様な展開を目指し、牛の受精卵移植技術の普及定着の促進と受精卵凍結・卵分割等による肉用牛の双子生産技術の推進を図る。また体外受精技術、性別技術等の関連

技術の確立を図り、肉用牛資源の拡大と受精卵の低コスト化を推進する。

(2) 畜産情報システム化の推進

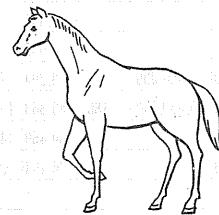
家畜生産管理技術をはじめ、畜産農家が必要とする各種情報を迅速かつ的確に提供し、畜産経営の高度化を図っていくため、MAI S（宮城農業情報システム）との関連のもとに、畜産情報利用の充実を図る。

また、家畜登録、能力検定等の一体的かつ効果的運用を図るため、データベースを構築し、中央家畜登録関係機関との連携を強化する。

県では以上の4方針のもとに、23億3千5百万円の予算で70事業を展開し、畜産の振興を図ってまいりますが、実施に当たっては、農家の皆様をはじめ関係各機関、団体と一体となって推進して参りたいと思いますので、一層の御協力をお願い申し上げます。

(畜政係 庄司 剛)

畜産振興の明日を担う地方競馬



地方競馬全国協会

ORION
ともに前進 技術のオリオン

酪農家の
声を反映した製品づくりと安心のおけるアフターサービスはオリオングループの誇りです。

東北オリオン株式会社
本社 〒983 仙台市若林区鶴代町1番68 ☎(022)284-0691
宮城営業所 古川市福浦字道の上106番1号 ☎989-61 TEL古川(0229)23-1631

飼い上手 育て上手は……
みのたに……で

動物薬品・獣医器具総代理店
株式会社 美濃谷

本店	山形市蔵王成沢字町浦491-2	TEL683121
山形店	山形市太白区山田字羽黒堂5番216	TEL2494306
仙台店	仙台市太白区山田字羽黒堂5番216	TEL2494306
鶴岡店	鶴岡市大字布目字東通り57-1	TEL240963
いわき店	いわき市常磐湯本栄田3	TEL024640300

家畜共済事業の概要について

宮城県農業共済組合連合会

1. 加入状況

間近に迫った牛肉輸入自由化等厳しい状況の中、平成元年度の家畜共済の加入状況は(表1)のとおりで、加入頭数86,863頭、共済金額(共済で保証している支払いの最高額)291億円となりました。これは前年度比較して頭数で103.3%、共済金額105.2%となっています。畜種別には、特定肉用牛等が全加入頭数の53.7%、共済金額54.1%を占め、次に肥育牛(頭数18.1%、共済金額24.2%)乳牛の雌(頭数16.3%共済金額17.0%)となりました。

畜産農家の経営安定のため、県内で飼養されている家畜の完全引受を実施すべく、加入推進してまいりますので、関係者皆様のご指導とご協力を賜わりたくお願い申し上げます。

2. 事故発生状況

家畜の飼養形態が多様化していることもあり、年々事故は多発する傾向にあります。

平成元年度の事故状況は(表2)のとおりですが、死亡、廃用事故は、6,317頭、前年度に比べて397頭の増加となり7億8千万円の共済金を支払いました。病傷事故は延べ79,854頭、対前年度1,669頭の増加となり7億4千万円の共済金を支払いました。

最近の厳しい畜産情勢下において、家畜共済の役割は大きなものですが、家畜の事故を最少限にとどめることこそ安定的な畜産経営につながると考えられます。死廃事故の主な疾病別発生状況(表3)を掲げましたので、事故防止のご指導等にご活用頂きたくお願い申し上げます。(家畜課 太田基一)

表1. 平成元年度家畜共済引受状況

	推進目標			平成元年度			昭和63年度			増減			目標達成率		
	頭数(頭)	共済金額(千円)	一頭平均(千円)	頭数(頭)	共済金額(千円)	一頭平均(千円)	頭数(頭)	共済金額(千円)	一頭平均(千円)	頭数(頭)	共済金額(千円)	一頭平均(千円)	頭数(%)	共済金額(%)	一頭平均(%)
乳牛の雌(成乳牛)	30,000	6,000,000	200	26,383	4,943,310,151	187	25,641	4,714,495,000	184	742	228,815,151	3	87.9	82.4	93.5
(育成乳牛)				25,401	4,844,697,615	191	24,539	4,600,163,724	187	862	244,533,891	4			
肥育牛	32,000	7,496,000	234	29,294	7,064,254,040	241	31,110	7,314,006,200	235	-1,816	-249,752,160	6	91.5	94.2	102.9
特定肉用牛等(親牛)	83,000	15,469,000	186	86,863	16,507,626,284	190	79,868	14,988,295,450	188	6,995	1,519,330,834	2	104.7	106.7	101.9
(胎児)	35,690			36,404	2,493,554,273	68	33,642	2,276,476,843	68	2,762	217,077,430	0	102.0		
肉用種雑種牛				1	2,100,000	2,100	2	2,580,000	1,290	-1	-480,000	810			
一般馬	120	75,400	628	118	72,750,000	617	110	67,290,000	612	8	5,460,000	5	98.3	96.5	98.2
大家畜計	145,120	29,040,400	200	142,659	28,590,040,475	200	136,731	27,086,666,650	198	5,928	1,503,373,825	2	98.3	98.4	99.9
種豚	12,000	720,000	60	5,993	353,059,000	59	6,979	416,630,000	60	-986	-63,571,000	-1	49.9	49.0	98.3
肉豚	16,000	240,000	15	12,957	193,840,000	15	12,757	185,748,000	15	200	8,092,000	0	81.0	80.8	100.0
中家畜計	28,000	960,000	34	18,950	546,899,000	29	19,736	602,378,000	31	-786	-55,479,000	-2	67.7	57.0	84.6
合計	173,120	30,000,000	173	161,609	29,136,939,475	180	156,467	27,689,044,650	177	5,142	1,447,894,825	3	93.4	97.1	103.9

ビフィズス菌は
 ヨーグルト中の乳酸菌の働きは、どれも同じではありません。
 生きてそのまま腸までとどきます。
ビヒダス
プレーン
ヨーグルト 500ml
 宮酪乳業株式会社 名取市飯野坂五丁目1番3号
 ☎(022) 384-5181

発育促進・食欲増進・栄養補給に
バイミルク
 ビタミン・ミネラル総合飼料添加剤
日本全薬工業株式会社

表2 平成元年度家畜共済事故実績

畜種	平成元年度						昭和63年度						前年対比							
	頭数		共済金		頭数		共済金		頭数		共済金		頭数		共済金		頭数		共済金	
	頭数	共済金	頭数	共済金	頭数	共済金	頭数	共済金	頭数	共済金	頭数	共済金	頭数	共済金	頭数	共済金	頭数	共済金	頭数	共済金
乳牛の雌	1,878	310,215,213	1,667	275,621,546	211	34,593,667	乳牛の雌	28,627	315,514,786	29,715	327,924,946	-1,088	-12,410,160							
肥育牛	1,034	202,592,719	1,091	210,887,605	-57	-8,294,886	肥育牛	11,006	99,088,166	11,000	101,060,420	6	-1,972,254							
特定肉用牛等	521	128,892,575	468	114,809,445	53	14,083,130	特定肉用牛等	24,643	181,183,488	23,810	179,023,940	833	2,164,548							
胎児・出生子牛	1,257	85,420,908	1,081	70,453,906	176	14,967,002	胎児・出生子牛	13,773	135,451,270	11,316	111,174,380	2,457	24,276,890							
一般馬	13	6,961,350	3	1,305,720	10	5,655,630	一般馬	116	964,440	135	1,095,790	-19	-131,350							
種豚	700	38,706,116	791	43,587,080	-91	-4,880,964	種豚	1,689	10,507,474	2,208	14,806,480	-519	-4,299,006							
肉豚	914	13,742,000	819	11,978,000	95	1,764,000	肉用種豚	0	0	1	5,630	-1	-5,630							
合計	6,317	786,530,881	5,920	728,643,302	397	57,887,579	合計	79,854	742,714,624	78,185	735,091,586	1,669	7,623,038							

表3 家畜共済死産事故主要疾病別発生状況

(乳牛の雌)														(肥育牛)													
順位	病名	1	2	3	4	4	6	7	8	9	9	11~	前年対比	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11~	前年対比		
		関節炎	産前産後起立不能	第四胃変位	乳房炎	骨折・脱臼	心臓衰弱	腰痠	肝炎	鼓脹	敗血症	その他		合計	鼓脹	肺炎	尿管石	腸胃腸脂肪壊死症	骨折・脱臼	心臓衰弱	第四胃変位	ヘモフィリス・ソムナス感染症	胃腸炎・胃腸カタル	関節炎		その他	合計
白石	81	37	32	36	34	4	4	13	11	7	109	368	5	24	35	15	3	9	8	13	1	4	2	52	168	△22	
角田	32	23	16	15	13	3	2	3	2	8	40	157	1	9	2	2	1	2	3	0	0	3	0	9	33	0	
名取	45	29	20	24	18	8	3	8	3	9	55	222	51	4	8	16	2	4	6	4	4	0	1	21	69	△14	
大衡	6	10	5	5	9	3	1	4	1	0	7	51	1	18	13	8	2	8	2	7	2	9	7	17	94	△16	
中新田	30	23	23	16	14	7	9	3	8	8	41	182	△3	5	5	16	5	3	3	0	12	2	3	12	65	3	
古川	46	44	40	24	31	14	7	8	13	12	67	306	33	15	15	12	17	10	2	14	8	5	3	43	145	△18	
築館	22	35	33	5	14	6	12	2	1	4	49	183	38	6	4	11	5	5	6	3	2	5	2	34	86	5	
迫	18	28	14	9	11	15	15	8	2	4	46	170	43	12	13	11	31	14	22	5	4	3	6	49	167	△16	
本吉	7	7	4	5	8	3	1	3	3	1	8	50	9	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	7	△4	
石巻	27	28	18	33	20	6	2	3	9	0	43	189	33	37	26	16	14	16	9	13	12	10	11	38	200	25	
計	314	264	205	172	172	69	56	55	53	465	1,878	211	132	121	109	80	71	61	59	45	41	35	280	1,034	△57		
前年度	231	259	183	145	158	77	59	51	37	42	425	1,667		151	152	142	60	78	62	52	35	35	40	284	1,091		
増減	83	5	22	27	14	△8	△3	4	16	11	40	211		△19	△31	△33	20	△7	△1	7	10	6	△5	△4	△57		

(特定肉用牛等)														(種豚)													
順位	病名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11~	前年対比	1	2	3	4	5	6	7	8	8	10	11~	前年対比		
		胎児死	新生児死	心臓衰弱	胃腸炎・胃腸カタル	腸胃腸脂肪壊死症	肺炎	白痢	骨折・脱臼	鼓脹	腰痠	その他		合計	腰痠	心臓衰弱	関節炎	子宮脱・膣脱	難産	産褥熱	直腸脱	敗血症	コロナバクテリウム	肺炎		その他	合計
白石	8	16	5	2	7	7	6	2	2	0	15	70	△6	0	2	2	1	0	1	0	0	0	0	4	10	28	
角田	10	17	4	7	4	3	3	2	1	0	12	63	24	6	5	3	4	2	4	1	8	1	0	15	49	4	
名取	7	11	4	4	6	1	1	1	1	0	5	41	△9	1	6	4	1	0	0	0	0	0	1	13	26	△13	
大衡	21	9	3	5	3	7	1	0	1	0	11	61	15	5	2	0	0	2	2	0	1	1	0	7	20	4	
中新田	60	42	22	17	16	10	20	13	6	4	60	270	80	12	11	10	12	4	2	4	3	1	0	14	73	△10	
古川	84	67	16	26	21	20	16	15	11	4	77	357	△7	44	30	30	18	6	9	9	6	2	7	48	209	△37	
築館	76	74	16	26	19	15	11	6	6	13	64	326	56	32	30	16	5	8	8	5	1	2	0	20	127	1	
迫	113	43	90	39	22	16	6	8	8	3	68	416	69	26	27	7	9	8	2	3	2	11	2	36	133	4	
本吉	17	13	1	3	0	2	2	5	3	0	11	57	△4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
石巻	31	17	8	8	7	12	3	5	8	2	16	117	11	10	2	7	4	1	1	1	0	3	5	19	53	△16	
計	427	309	169	137	105	93	69	57	47	26	339	1,778	229	136	115	79	54	31	29	23	21	21	15	176	700	△91	
前年度	398	283	122	129	83	87	53	30	41	16	307	1,549		113	123	95	61	39	22	38	25	18	35	222	791		
増減	29	26	47	8	22	6	16	27	6	10	32	229		23	△8	△16	△7	△8	7	△5	△4	3	△20	△46	△91		

平成2年度畜産物価格 安定制度について

宮城県畜産課

本年度における各種畜産物の保証価格・基準価格等が決定したのでお知らせします。

1. 食肉関係

食肉の価格安定制度は「畜産物の価格安定等に関する法律」に基づき、豚肉については昭和30年度、牛肉については昭和50年度から食肉の価格安定を図ることを目的として開始されました。安定価格は、食肉の生産条件及び需給動向などを考慮し、食肉の再生産を確保するため過去の実勢価格の動向、生産費の変化などをもとに算定されることになっています。牛肉については、安定上位価格は1,285円/kg、安定基準価格は985円/kgといずれも10円引き下げられ、また豚肉については安定上位価格は565円/kg、安定基準価格は400円/kgといずれも据置きで諮問され、畜産振興審議会での答申を踏まえ、諮問どおり決定されました。(表1)

2. 肉用子牛関係

肉用子牛の保証基準価格及び合理化目標価格については「肉用子牛生産安定等特別措置法」に基づき決定されました。保証基準価格は黒毛和種及び褐毛和種で304,000円、乳用種では165,000円となり合理化目標価格はそれぞれ276,000円及び142,000円となりました。(表2)保証基準価格は肉用子牛の再生産を確保するために毎年決定され、合理化目標価格は、牛肉の自由化後に輸入牛肉と対抗しうる価格で国産牛肉の生産を行うための肉用子牛の目標価格として決定されました。

3. 牛乳乳製品関係

加工原料乳のいわゆる不足払いは「加工用原料乳生産者補給金等暫定措置法」に基づき、昭和41年度から開始されていますが、本年度は、加工原料乳の内外価格差の縮小や日米乳製品再協議への配慮から2年ぶりに引き下げられ、保証価格については2.6%下の77円75銭/kgとなり、基準取引価格は1.9%引き下げの65円98銭/kgとなりました。(表3)

4. 鶏卵関係

鶏卵価格安定基金の補てん基準価格は、昨年補てんがなかったこと、エサの価格が値上りしたこと、また、平成2年度は基本契約(3ヶ年)の最終年度で、財源も豊富にあることをうけて、(社)全国鶏卵価格安定基金(全農系)、(社)全日本卵価安定基金(全鶏連系)とともに、前年よりも13円高い160円/kgに決定されました。(畜産流通係 半沢康弘)

表1. 指定食肉安定価格

(単位:円/kg)

		去勢牛肉	豚肉
平成元年度	安定上位価格	1,295	565
	安定基準価格	995	400
平成2年度	安定上位価格	1,285	565
	安定基準価格	985	400

表2. 指定肉用子牛保証基準価格及び合理化目標価格

(単位:円/頭)

		黒毛和種及び褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種
平成2年度	保証基準価格	304,000	214,000	165,000
	合理化目標価格	267,000	188,000	142,000

表3. 加工原料乳の基準取引価格及び保証価格

		元年度告示	2年度 対前年比
定 指 標 価 格	バター	1,092円/kg (うち消費税分32円)	1,065円/kg (うち消費税分31円) (△2.5%)
	脱脂粉乳	13,163円/25kg (うち消費税分383円)	12,833円/25kg (うち消費税分374円) (△2.5%)
	全脂加糖れん乳	8,232円/24.5kg (うち消費税分240円)	8,178円/24.5kg (うち消費税分238円) (△0.7%)
	脱脂加糖れん乳	7,384円/25.5kg (うち消費税分215円)	7,305円/25.5kg (うち消費税分213円) (△1.1%)
基準取引価格		67.25円/kg (うち消費税分1.96円)	65.98円/kg (うち消費税分1.93円) (△1.9%)
保証価格		79.83円/kg	77.75円/kg (△2.6%)
限度数量		230万トン	235万トン

飼料は  まるきた印

採卵鶏用配合飼料
ブロイラー配合飼料 肉牛用配合飼料
乳牛用配合飼料

北日本飼料株式会社

石巻市川口町3丁目2番8号

TEL 石巻 0225 (22) 6111
FAX 石巻 0225 (22) 6116

平成元年度生乳計画生産について

宮城県生乳販売農業協同組合連合会

平成元年度生乳計画生産は、新たに中期生乳需給計画が打ち出され、生乳生産の安定性を配慮した3ヶ年計画で実施することとなったが、下期に入ってからの飲用牛乳需要の減退とあいまって生乳生産の伸びが鈍化し、生乳計画生産目標を下回る結果となった。

上期は昨年度後半からの増産基調を受け対前年比107.46%と順調に推移したものの、下期は夏バテ等の影響もあり対前年比103.64%と計画を下回り年度で対前年比105.54%、計画比98.62%と約2,500tの未達となった。

用途別について、飲用向けは62年度後半から好調な伸びを示していたものの、下期に入ると全国的に低迷し、宮城も対前年比96.4%、年度で99.5%と前年を下

回り、その結果、乳製品向けは3年ぶりに限度数量をオーバーし、全国的にも若干過剰気味になりつつある。

平成元年度計画生産は、各会員の協力のもとに、生産基盤の見直し等により、出荷目標数量の返還あるいは、特別調整乳の実施を行なったため、各会員が生産状況等を把握し、若干の未達にはなったものの、当初の出荷目標をクリアし、未達、超過のペナルティーがほとんど発生しなかったことは、会員各位並びに生産者の努力によるものと深く感謝を申し上げる次第であります。

尚、平成元年度計画生産達成状況は下記の通りです。
(業務課 武田良介)

表1. 平成元年度四半期別生乳計画生産出荷実績

(単位: kg)

	出荷実績量	前年比	計画比
第1四半期	45,393,152.0	108.68	-
第2四半期	43,714,390.4	106.23	-
第3四半期	42,993,562.2	104.39	-
第4四半期	43,656,719.9	102.91	-
年度計	175,757,824.5	105.54	98.62

表2. 平成元年度会員別生乳計画生産出荷実績

	生乳計画生産出荷目標量 (t)			出荷実績乳量 (kg)	前年比 (%)	計画比 (%)
	基礎目標	特別調整乳	出荷目標			
蔵王酪農	32,076	436	32,512	32,064,249	102.13	98.62
宮城酪農	48,782	112	48,894	48,426,121.5	106.39	99.04
宮城経済連	32,559	863	33,422	32,660,520	104.85	97.72
仙台酪農	7,169	0	7,169	7,210,376	106.38	100.58
宮城県経済連	26,918	1,282	28,200	27,802,534	109.52	98.59
栗原酪農	8,218	0	8,218	8,174,690	104.59	99.47
登米酪農	7,061	0	7,061	6,838,117	104.70	96.84
本吉酪農	6,000	0	6,000	5,930,190	105.47	98.84
遠田酪農	4,716	167	4,883	4,792,287	104.88	98.14
山田八日会	1,828	26	1,854	1,858,740	105.40	100.26
合計	175,327	2,886	178,213	175,757,824.5	105.54	98.62



動物用 (牛専用)
医薬品

トルロミックス

特殊酵母+必須ビタミン+ミネラル配合

株式会社 トーシン

古川市古川字上古川屋敷9番地の1
TEL 0229 (24) 3 2 1 1 (代)

新製品

くみあい新哺乳期子豚用飼料

世界初!

免疫活性化原料ペプチドグリカン配合

『ウルトラミルクシリーズ』

餌付け人工乳……ウルトラミルク **えつけ**
離乳人工乳……ウルトラミルク **すこやか**
スターター人工乳……ウルトラA **げんき**



農協・宮城県経済連・全農

創立40周年を祝う

社団法人 社日本種豚登録協会宮城県支部

社日本種豚登録協会宮城県支部は、平成元年度をもちまして創立40周年を迎え、その記念式典を去る4月27日仙台市内に於て関係者約100余名の出席を頂き挙行いたしました。

式典では千葉支部長の挨拶に続いて永年に亘り本県種豚改良の基盤築りに活躍され本県の養豚の振興に尽力された方々に宮城県知事、社日本種豚登録協会会長、本会支部長より感謝状が贈呈され、また永年種豚改良事業の発展に尽力された役員、団体、生産者、登録委員の方々に支部長より表彰状が贈呈された。

式には本間宮城県知事(代読)、社日本種豚登録協会会長、登録団体を代表し宮城県ホルスタイン協会会長等の祝辞が行なわれて併せて過去40年の歴史と実績を集録した「種豚登録事業の歩み」を作成し、創立40周年の行事といたしました。

昭和23年種畜法制定に伴い同年社日本種豚登録協会が設立され全国的に豚の改良方向の一定化の必要性から登録事業を通じて改良の促進が図られ昭和24年全国に先駆け宮城県支部が発足し、養豚農家に対する登記、登録を主体とした種豚の改良推進が開始されたのが本会支部の起源であります。

顧りみますと発足当時は敗戦という大和民族が初めて味わった苦しい経験の時代であり、国民全体が目標を失い食糧も思いのままにならず幾多の風雪と苦難を乗り越え食糧難から経済の成長とともに食生活の質的内容も向上し、特に畜産物に於ては急速な需要増加に支えられ飛躍的な発展を遂げまいりましたが、これは豚肉が動物性食品の中では日本人の食生活構造に極めてなじみやすい食品であり蛋白質、脂肪、炭水化物の栄養バランスがよく価格が比較的安いことなどから消費量が毎年10%前後も伸びてきたのです。

本県に於ける畜産も農業粗生産額の3分の1を占め、稲作につぐ重要な基幹作物として位置付けられ、中

も養豚は畜産の32%を占める所得実績を上げる等我が国について主要な養豚県として進展してまいりました。

一方豚の改良は国、県を中心に産肉性の高いものに能力が向上され、又繁殖能力や産肉能力のすぐれた成果の普及については登録事業を通じて対処された次第で今や個体能力においては諸外国に遜色のないものであり、又総合的な生産性についてはむしろ諸外国をし

のぐものであります。しかし乍ら養豚の規模が拡大され、定量、定質化が呼ばれている昨今、これらに対応する体制が十分整っているとはいいがたい面があり、多き問題が引き起こっております。例えば牛肉自由化勧告等に伴う豚価の低迷、慢性疾病による生産性の低下、オーエスキー病発生等に伴う種豚の停滞、肉豚の品質問題、糞尿処理問題等々養豚を取りまく環境は厳しいものがありますが、今後は生産コストの低減はもとより消費者ニーズに見合った品質の良い豚肉を供給することが重要であります。そしてその目的を達成させるには基礎となる能力のはっきりした種豚を選抜して造成することが種豚登録事業の基本であります。

支部といたしましては登録、登記業純粋種豚のより一層の改良と普及を推進するため、能率のかつ付加価値の高い登録制度の改革や、これを肉豚生産に有効に利用する方策などを確立して、足腰の強い養豚の構築に資する所存であります。

最後に40年の永年に亘り、本会支部の育成強化と本県養豚事業発展にご援助、ご協力を賜わった国、県、ならびに関係各位に改めて敬意を表するとともに微力ではありますが明日への飛躍を目指して登録事業の発展に努力する所存でございますので、尚一層のご支援とご指導を切望申し上げる次第であります。

(事務局長 大槻文麿)



正統の育ちと味



仙台牛銘柄推進協議会

仙台市青葉区上杉1-2-16宮城県経済連食肉販売課内 TEL. 022(264)8449-50

動物用薬品器材のことなら 古い伝統
と信頼のある東北獣医にご用命下さい

本社 仙台市青葉区上杉3丁目3-8

東北獣医薬品株式会社

TEL (225) 7330・7338・7339

仙台営業所 仙台市青葉区上杉三丁目3-8

022 (225) 7338-9

古川営業所 遠田郡小牛田町字関根館野28

0229 (34) 2018-9

仙北営業所 登米郡迫町佐沼字萩洗1

0220 (22) 2278

〈畜試便り〉

畜産試験場における試験研究の現状と平成2年度計画

牛肉の輸入自由化等を控え畜産経営は、国際化に対応し十分自立できるような体制を早急に確立することが緊要であります。このためには新技術の開発や、より能力の高い家畜への改良をはじめ低コスト飼料資源の確保が必要であります。特に育種改良におけるバイオテクノロジーの応用技術、生産コストの低減技術、高品質畜産物を生産する技術等の開発が急務であります。このことから畜産試験場では、受精卵関連等新技術の開発利用により家畜の能力向上や生産性の向上を図りながら畜産農家に技術や情報の提供を行っています。

畜産試験場の主な試験研究内容は次のとおりです。

1. 牛の受精卵移植及び体外受精の研究

昭和59年度から研究に着手している牛の受精卵移植技術の成績は、年々向上し平成元年度の実績では、192頭に移植し受胎頭数116頭で受胎率60.4%に達しております。又体外受精は、昭和63年度から着手し75頭に移植し受胎率52%であります。本年度は受胎率向上を目指すとともに特に体外受精の技術の精度向上に関する試験研究を実施します。

2. 肉牛の高生産技術に関する研究

交雑種雌牛に受精卵移植を行い子牛を生産した経産牛の産肉性について検討しておりますが、F₁の1産取り肥育の産肉成績は、肥育期間154日間、(1日の平均増体量1.15kg、脂肪交雑基準(BMS)1.44でありました。又交雑種肉用牛(F₁)の肥育試験は特に飼料構成の違いによる産肉性の影響についても実施しております。

本年度は効率的な高品質牛肉生産のための飼料給与方式の確立という課題名で飼料のエネルギー水準が黒毛和種去勢牛の肥育性に及ぼす影響についての試験が実施されます。

3. ランドレース種系統豚の造成に関する研究

昭和58年からランドレース種の系統豚造成事業を開始し、平成2年3月に造成を完了しました。名前は「ミヤギノ」と命名され特に発育の早さが優れており飼料の利用性も高く又背脂肪層は適度に薄くハムも充実しており、県内の養豚農家からは銘柄豚生産のための純粋種豚の切札として熱心期待が寄せられております。

本年度から系統の寿命をできるだけ長く保ち、強健性・連産性を高めるためのランドレース系統維持群の飼養方法に関する研究も実施しています。

4. 乳牛の高生産性技術に関する研究

高泌乳牛の繁殖性向上を図るため、分娩前後の飼養法について試験を実施した結果、セレンの添加により受胎率等に若干の改善が見られたので本年度は地域資源利用による生乳生産試験及び高能力哺育育成試験を実施します。

5. 低未利用資源の飼料化に関する研究

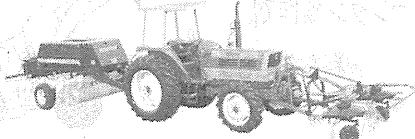
飼料の低コスト化及び飼料素材の有効活用を図るため、製造粕類等低未利用資源を利用した混合飼料の簡易大量貯蔵試験を実施した結果、豆腐粕混合サイレージには、ビートパルプを使用すると良質の一次サイレージが調製できることがわかり、本年度は引き続きオーリンサイレージの調整と給与技術等について試験研究を推進します。

以上主な試験研究課題について概要を説明しましたが当試験場ではこの他にも種々試験研究を実施し飼料生産から高産物の生産まで一貫した流れの中で高生産性畜産技術の確立を推進してまいります。

(乳牛科 小野寺千一)

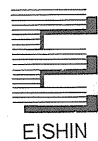


WORLD ワールド サンシャイン



株式会社 五十嵐商会

仙台市若林区卸町五丁目1番地4
電話(022)236-2525(代表)



クスリの総合卸

株式会社 エーシン

取締役社長 山田 修造

畜産課 仙台市青葉区木町通り1-5-19 ☎(022)267-7211
古川市福浦字道の上137-1 ☎(0229)24-1211
本社 仙台市若林区卸町2丁目10-3 ☎(022)284-8111

豚の細菌性下痢症

仙台家畜保健衛生所

豚の下痢の発生は日齢、飼養環境、気候など多くの要因に影響を受けやすく、病原体も細菌、ウイルス、寄生虫と多岐にわたるために診断や対策に難しいものがあります。豚の成長と細菌性下痢の関連をみると、哺乳期までは大腸菌性下痢、離乳期は離乳後下痢、肥育期には豚赤痢、サルモネラ症などがあげられます。

1. 大腸菌性下痢

原因は毒素原性大腸菌で、哺乳期までの下痢の約30%を占めており、母豚の糞便が主な感染源です。便は水様、粘液様、ミルク様と様々で病勢の進行につれて水様となり脱水症状を呈し死亡に至ります。

2. 離乳後下痢

離乳時期に多発し、毒素原性大腸菌が原因で起る下痢の総称です。罹患率は高率ですが死亡率は10%程度で、症状は軟便程度の下痢と脱水が主で回復しても発育遅延の誘因となります。

3. 豚赤痢

赤痢トレポネーマの感染による病気で血様性の下痢を主徴とします。体重20~70kgの肥育豚で集団的に発生することが多く、投薬で回復してもやめると再発しやすく、一度発生すると清浄化の難しい病気です。

4. サルモネラ症

サルモネラ菌が原因で水様、黄色下痢、発熱、肺炎症状、神経症状を主徴とし、数日で回復しますが慢性に移行することもあります。

いずれの病気も下痢による栄養失調や脱水症状によって死亡しなくても発育に重大な支障を来し経済的損失が大きいので畜舎の清掃消毒の徹底に努め、下痢症状の早期発見、早期治療に努めて、損害を最小限にとどめることが肝要です。

(病性鑑定課 渡部正樹)

畜産ビデオ

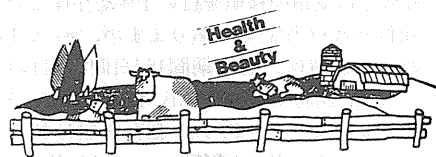
貸出しのご案内

畜産会では、畜産農家の方々へ視聴覚指導用として次のようなビデオ(VHS)を貸出しておりますのでご案内いたします。

1. 世界の牛肉生産(アメリカ編)
2. " (ヨーロッパ編)
3. " (オセアニア・南米編)
4. 自由化への挑戦(肉用牛繁殖経営編)
5. " (肉用牛肥育経営編)
6. 肉用牛のサイレージ利用
7. 牛肉の生産(E.C並みを目指して)

※ この他、16ミリフィルム、スライドの各種視聴覚資料もありますので、詳細については宮城県畜産会へお問い合わせ下さい。

牛乳を飲んで食べて健康に!



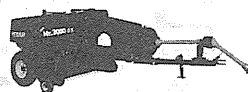
宮城県牛乳普及協会

より豊かな明日の農業のために

STAR

頼もしい働き者
牧草梱包稲わら梱包に!!

Mr1000 Mr2000DX
Mr3000DX、Mr4000DX



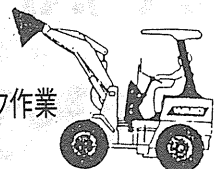
ハーベータTHB2020

STAR-農機株式会社 仙台営業所

9 8 5 多賀城市町前2丁目87 TEL022-367-4573
FAX 367-4846

KOMATSU

カンタン操作で、
飼料も堆肥もラクラク作業



宮城小松販売株式会社

仙台市宮城野区扇町二丁目1の30
電話(022)(237)7441番代